

# 平成29年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

## (個人留学による帰国報告)

### ●氏名

NHさん

### ●留学先

国/都市：米国/アラスカ州アンカレッジ

外国の高校：ステラーセカンダリースクール

### ●留学期間

平成29年9月7日～平成30年6月26日

### ●留学先での活動、留学で学んだこと

私のアラスカでの10ヶ月の留学生活はとても濃く、ユニークなものでした。

第一に、アラスカという土地。私は横浜という大きな都市で育ってきたので、いつも週末は、友達とショッピングやカラオケに行っていました。しかし、アラスカは人口も少なく、ダウンタウンも閑散としていて街に遊びに行く文化がありません。なので、みんなハイキングやサイクリングに行ったり、キャンプをしたりしていました。そこから、育ってきた環境よっての趣味や興味の違いに気付かされました。私は、自分自身、街に出かける方が好きなことに気付きました。

そして、私の留学生活にユニークさをもたらしてくれたホストファミリー。私は六人ものホストシスターに囲まれて生活をしていました。ホストペアレンツは二人とも白人で、一番上のシスターも白人でした。その他のシスターはみんな中国人。四人はホストペアレンツが養子にしたシスターたちで、もう一人は中国からの留学生、ダブルプレースメントでした。アメリカでは養子がとても盛んですが、日本では盛んではありません。なので、四人も養子を取っていたホストペアレンツの心の広さや文化の違いに驚かされました。ホストファミリーでの居心地はとても良く、みんな本当の家族の様に接してくれ、私は私のホストファミリーが大好きになりました。お別れをする時は、とても辛かったです。

留学中、私は自分の夢や価値観を、友達と語り合う機会が多々ありました。私は昔からキャビンアテンダントになりたいという夢を持っていました。アラスカで友達に夢を聞かれたらそう答えていました。しかし、ヨーロッパやアメリカではキャビンアテンダントは低賃金な仕事と見なされているらしく、みんなに「もっと良い仕事に就けるよ」と言われました。ずっと一つの夢しか見ていなかった私は、世界各国の友達とシェアしたことで、

選択肢が広がったと感じます。友達の中には、エンジニアになりたい子がいたり、国連で働きたい子がいたり、様々です。日本では、キャビンアテンダントが夢というサポートしかされなかったのが、海外でこの高校二年という大事な時期に、新たな価値観を自分の中に取り入れられたのはとても大きなことだと感じています。

自然を楽しみ、人として成長できたこの一年。サポートしてくれた私の家族、ホストファミリー、友達、そして横浜市には感謝しかありません。ありがとうございました。

